

「ふつうの毎日」は当たり前ではない

城山小学校 6年 細羽 孝太郎

僕は、毎日当たり前のように学校へ行き、友だちと笑いながら給食を食べています。学校から帰れば家にお母さんが待っていてくれるから、「好きな給食のおかずがでたよ」とか「休み時間に友達と校庭で遊んだよ」とか今日一日にあったことを、おやつを食べながらお話しをするのが日課になっています。晩ごはんを食べた後は家族みんなでテレビを見たり、ゲームをしたりしてすごしています。この「ふつう」の日々が平和なのかもしれないと考えるようになってきました。

ニュースでは今も世界のどこかで戦争や争いが続いている事が伝えられています。そして同じ年くらいの子どもや僕よりも小さい子どもたちが学校へ行けずに避難生活を送っていたり、家族と離ればなれになっていることを知り、心がグッと悲しくなったり、苦しくなったりします。もしも「ぼくがこの立場だったら」と思うと、とてもこわくなります。僕は、実際戦争や争いを経験したことはありませんが、社会の学習を通して、昔の日本でおきた戦争の事について知りました。空襲で町が燃えてしまったことや食べ物がたりなくてお腹いっぱい食べられなかったこと、たくさんの命が奪われたことを知り

ました。教科書に乗っていた白黒の写真を見ただけで、現場にあった悲しみや苦しみが伝わってきました。もし、今、ぼくが生きている時代がそのような戦争の時代だったらこのような作文も書けていなかったかもしれません。友だちとけんかをして明日また仲直りができることや休みの日に遊ぶ約束ができるのは、おたがいの命が守られているからこそです。こう考えると何も考えずに友だちと仲良くしゃべって遊んでいる1日がどれほど幸せなことなんだろうということに気がつきました。

では平和な世界をつくるために僕ができることはなんだろうと考えました。僕は、平和のために国と国が「平和にしましょう」と大人の人たちが話し合いだけで守られるものはないと思います。1人1人の小さな行動が集まって大きな平和につながるのだと思います。

例えば、クラスメイトにいやな言葉を言わないことだ。誰かが困っていたら、声をかけてあげること、いじめを見たときに「やめてあげて」と言うこと、これらは一見当たり前と思ったり、身近なことではありますが、相手の心を傷つけないように気を付けるという意味で平和を守る1つの行動だと僕は思います。こころが傷つくことのない社会というのは戦争や争いからも遠い社会だと思うからです。またテレビニュースで戦争や争いのことが映し出されたときは、なぜ、どうして、その戦争につながったのかをできるだけ自分の中で知

っておきたいと思うから、できるだけチャンネルは変えずにニュースを見るようにしています。なぜならその戦争を知り、争いが繰り返されないためにはどうしたらいいのかを考えることが自分たちのための教訓になるかもしれないからです。戦争の状況が映し出されるときは目をそむけたくなるくらい辛かったりもするけど、それを知ることでも平和への1歩だと思います。

これから先、僕が大人になったときも今回考えた平和についての気持ちを忘れないようにしたいです。仕事をするときも家族を持ったときも、目の前の人を大切にし、「話し合いで解決する」というしせいを持ち続けたいと思います。そして世界のどこかで苦しんでいる人たちのことを思い出し、自分たちにできる支援があれば少しでも行動ができる人になりたいです。

今の僕のまわりは静かで空は青く染まっています。この当たり前の景色が世界中どこに居ても見えるような時代が来ることを願っています。そのためにまずは自分のクラスや家族からあたたかい空気を広げていきたいです。小さな1歩かもしれませんが、その1歩が僕の考える「ふつう」の幸せと平和につながって行くと信じています。